

曹洞宗

群馬県宗務所 第13教区報

第 5 号

平成29年1月1日発行

東日本大震災 支援活動報告 (陸前高田市佐野仮設住宅を訪問し交流しました)

日時：平成28年10月26日 (水) 午後2時～6時 場所：陸前高田市米崎町佐野仮設住宅



万燈会 仮設住宅通路にガラス灯籠、祭壇に行燈を並べ、灯籠に群馬の子供たちが描いた絵画や皆様からのメッセージが貼り付けてあります。灯火が幽玄の世界に包まれていました。

法要 祭壇を設け、位牌、写真を配置し、供物をお供えし、全員で東日本大震災物故者、陸前高田市佐野仮設住宅物故者に、黙祷・御詠歌・読経・焼香が行われました。導師の長楽寺住職峯岸正典老師からは法話で、「被災で亡くなられた方の分を今生きている私達がしっかりと生きていきましょう。」と励ましの言葉がありました。

支援物資搬入・炊出し・傾聴ボランティア 皆様からお預かりした支援物資を搬入しました。炊き出しでは群馬の味、けんちん汁うどんと焼きまんじゅうを炊き出しました。また、お菓子と抹茶による傾聴ボランティアで交流しました。

被災地の復興は徐々に進んでいます。仮設住宅の使命も終わりつつあり、退出を迫られているとのこと。昨年は、佐野仮設住宅に32世帯がいらっしゃいましたが、今年は11世帯で、徐々に自宅建設や復興住宅への移転が進みつつあります。

今回、住民の方以外に以前住んでいた方も大勢来てくれました。仮設を出られた方の話では、仮設で培われたコミュニティがばらばらになってしまい、移住先地での孤独化など、移転後の生活の問題点も沢山あるようです。まだまだ支援の必要性和期待は高いと実感しましたが、今回の訪問はひとつの大きな節目となることは間違いありません。

これまで、義援金や物資の提供にご協力下さった延べ947名の皆様に心から御礼申し上げます。

4ページに自治会長からの御礼の言葉と皆様から頂戴した支援物資の集計を掲載します。

第12回「微笑会」が開催されました

講師：永平寺副監院 丸子孝法 老師

演題：「無～ゼロからのスタート」・・・無一物中無尽蔵・・・

日時：平成28年6月4日（土）午後2時～4時

場所：甘楽町文化会館 参加者：455名



13教区が取り組んだ東日本大震災被災地支援活動を、スライドやビデオで支援物資の送付や炊き出し支援の様子が紹介されました。最興寺住職村上虎雄師らにより坐禅指導もおこなわれ、イス坐禅体験では会場全体が静寂に包まれていました。
丸子孝法老師による講演を私なりにまとめた講演要旨を以下に記載します。(文責 松浦)

7人兄弟の末っ子として山形県に生まれた。1500グラムの未熟児。生まれてきたのが不思議なほど虚弱体質だった。小さい頃から色々な病気を患い、苦しんだ。ずっと「チビ丸子」と呼ばれてきた。

貧困の生活であったが、奈良の平等寺の住職が後継者探しに山形を訪れ、私を見込んでくれた。そんな“出会い”があって、その住職に感激した私は、仏門の修行をする道を選んだ。永平寺で修行中、師が病（がん）を患ったと聞き、私は自分で縫い上げた“けさ”を師の病床に捧げた。師はたいそう喜んでくれた。その時、師は私に対して、3つの遺言を残した。①仏道のみ専念せよ ②墓は境内の中に頼む ③本堂を再建してくれ。

それ以来、「本堂の再建」は私の宿願となった。24歳で師のあとを継いだ私は16年間、平等寺の住職として、本堂再建の資金調達のための「托鉢」の行脚を続けた。

托鉢で飛鳥路を巡っていた折、白髪の老人に歓待していただいた。その人は、松下幸之助が創建した松下電器(株)の宿泊研修所長の石田さんであった。往年の幸之助が涙ながらに石田さんだけに打ち明けたという貴重な逸話（幸之助はどこにも公表しなかったという）を聞くことができた。

『幸之助は和歌山県海草郡和佐村に、小地主の8番目の子として出生。父が米相場の失敗で破産したため一家は全財産を失った。幸之助は尋常小学校を9歳で中退。自分がこの家にいるから親に苦勞をかけると、両親の反対を押し切って大阪へ丁稚奉公に出ることを決意。しかし、和歌山から大阪までの汽車賃がない。母親が知人のもとへ借金の頼みに回ったが、誰も引き受け手がいない。8件目でようやく4銭（今の千円ほど）を借りることができた。そして、4銭を握りしめて和歌山駅に着いた時、「せっかくもらったこの4銭、母が土間に額をつけて廻った姿を思い出し、一生使わないことにしよう」と誓った。そして切符を買わず、和歌山から大阪まで3日3晩、線路伝いに歩いた。大阪で事業を始めたが失敗して、辛くて死のうと思ったことがあったが、この時のことを思い出して「くじけるわけにはいかない」と頑張った。』

私はそんな話を聞いて感動した。幸之助はこの石田所長を心から信頼していたからこそ、こんな話を打ち明けたに違いない、もの凄い出会いだと思った。

幸い托鉢で基金も整い10万人の「記帳」も集まり、16年目にして平等寺本堂の再建が成っ

た。
今思うと、ムダや悲しみも全て自分にとって必要なものであった。マイナス×プラスはマイナス、プラス×マイナスもマイナス。しかしマイナス（の過去）×マイナス（の反省）はプラスになる。苦しい過去を背負っても謙虚に反省することからプラスの人生に転化することができる。プラスの人生も人生。マイナスの人生も人生。どう生きるかが問題。すべてが人生行路のお勉強。“出会い”を大切に生きて抜くことが大事だと思っている。

ノーベル物理学賞を受章した小柴昌俊先生の説を新聞で読んだ。137億年の昔、ニュートリノ現象によってビッグバンがおこり、太陽をはじめ多くの星が出来た。私達のこの地球には108(ママ)の元素があり、そのうちの92の元素をもつ人間という複雑な生物ができたという。

私は小柴先生の説を知って驚いた。父と母の縁によっていのちを頂き、私達は、地球の92の元素をいただいて生きている。人間だけではなく、鳥や魚などの動物も、植物も、流れる水や雲さえも、すべては母なる地球の元素をいただき、父なる太陽から来る水素や熱や光に守られ、支えられていたのだ。生きているということの事実、私が生きているのではなく、生かされている。100パーセント「いのち」が「私を生きている」「あなたを生きている」ことなのだ。頭が良いとか悪いとか小さなことで、偉いも偉くないも無いのだ。

金子みすゞの詩「私と小鳥と鈴と」に節をつけました。(歌う)

『私が両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、地面を速く走れない。
私が体をゆすっても、きれいな音はでないけど、
あの鳴る鈴は私のように、たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。』



「いのち」、その落ちつきどころに落ちつくのが坐禅です。それを大安心（だいあんじん）というのです。

0分の1=∞無限大（支えている自分がゼロになった時、無限大となる）。ゼロになるとはシンプルになることで、坐禅のさとり境地です。

道元禅師の著した正法眼蔵という本に「仏となるに、いとやすきみちあり、もろもろの悪をつくらず、生死に著するところなく、一切衆生のために、あはれみふかくして、上をうやまひ下をあはれみ、よろずをいとふこころなく、ねがふ心なくて、心におもうことなく、うれふることなき、これを仏となづく。」とあります。欲張らず謙虚に感謝の念をもって生きること。

自分の物など何もない。呼吸は全部吐いてから吸う、それが坐禅に繋がる
お釈迦様は、坐禅をしてお悟りを開かれた時に、「我と大地有情同時成道」（われとだいぢゅうどうじょうじょうどう）と真理をお説きになられました。「私も地球も同じいのちであった。すばらしい、すばらしい」とのべられた。

愛する心とか、慈しむ心はここから発進される心なのです。平等を説き平和を願われたお釈迦様の原点に帰る道を共に歩みましょう。

◆第13回微笑会は以下の日程で開催予定◆

どなたでも参加できます。 入場無料

日時 平成29年6月10日(土) 午後2時開演

会場 甘楽町文化会館

講師 千葉県松戸市 広徳寺住職 石川 光学老師

微笑会のホームページアドレス：<http://misyoue.main.jp/>

13教区が取り組んだ佐野仮設住宅への支援活動 これまでの総括

◆ 支援物資累計 ◆ (平成23年～28年実施分)

支援者数：延947名様

| | |
|---------|------------------------------|
| ○米 | 6,957kg |
| ○日用品 | 3,828点(洗剤、タオル、石けん、布団、枕、食材ほか) |
| ○下着・靴下類 | 1,748点 |
| ○義援金 | 1,550,570円 |

5年以上に亘り多くの方から頂いたご支援有り難うございました。

仮設住宅の住民組織を統轄されてきた自治会長から御礼の言葉がありました。



「私達は5年以上の間、被災し打ちのめされ、地域社会の外に視点を移すことすら忘れ、ただただ日々の生活に追われてきました。曹洞宗群馬県第13教区の皆様からこのように大量の生活用品、資金、愛情心にただただ甘えるのみでありました。何度いらして頂いたかも、記録も記憶もなく相当数の慈悲をただただ受領するのみでありました。が、頂いた慈悲深さはとうてい忘れることはありません。ハードな支援は国や県・市でありましたが、生活支援は第13教区寺院檀家様が大きな支えでありました。追い詰められた住環境の中では特に食料品、衣類

等生活支援物資とみほとけの慈悲心が、生きたい体には最も寄与することを教わりました。残る余生を、体験したことを胸に被災地住民の心の支えに少しでも寄与したいと思っております。

平成23年11月に39世帯90人余入居で始まった、仮設住宅であります。現在10世帯27人、29年2月末には3世帯7人となる見込みです。この3世帯も30年完成見込みの高台住宅に移転の予定です。まもなく未曾有の大震災から生き延びた我々は全員無事に仮設住宅から卒業の見込みです。5年7ヶ月経過の今、高台新築、公営住宅、自力再建とあらたな世界へ出発します。

苦しくて、苦しくて、苦しくて、楽しかった仮設住宅の生活。二度と味わいたくありません。心の奥底に深く重たいものがありますが、前を向き力強く生きていきます。

大量の支援物資、力強いお言葉を頂きました方丈様、檀信徒の皆様にも申し上げる言葉も見つからないほどの熱い熱いご支援でありました。これまでのご支援に深く感謝し、住民を代表して御礼の言葉といたします。」

佐野仮設住宅 自治会長 菅原正治

「寺院に親しむ講座」が開催されました

日時：平成28年11月30日(水) 会場：長学寺
 講師：長学寺住職 生沼善裕師 内容：腕輪念珠づくり
 楽しそうに作り上げた念珠に皆さんでお経をお唱えし、大切にお持ち帰りになりました。



特派講演会が開催されました

日時：平成28年10月7日(金) 会場：陽雲寺
 講師：北海道苫前町晃徳寺住職坂川資樹老師
 演題：「仏となるに、いとやすきみちあり」
 毎年会場を教区内寺院持ち回りで開催しています。
 仏教の本質を分かり易く説かれた講演会でした。

